

# TOMORROW NEWSTYLE

written by HADEYA

## 1

目が覚めたら、そこは現実。今日も労働が待っている。明日も明後日も待っている。  
いつか結婚し、出世し、浮気して幸せな老後の生活を送る。家族に看取られながら病室で他界する。  
何故、人は生きるのだろうか。何故、俺は生を授かったのだろうか.....。

気付いたのは奇しくも今日。世界が終わる日だ。

\*

働いて、深呼吸。働いて、深呼吸。素晴らしい人生。なのかな？ 本当に？

パソコンのディスプレイを緑色のフォントが走る。思わず、自問する。  
俺の人生、これで良いのか。本当にこのままで良いのか？

このまま終わる事に疑念を抱くのであれば、今晚19時に自宅最寄りのセブンイレブンにて——結衣より。

見ず知らずのメッセージは心に刺さった。指示通り、今晚、俺はセブンイレブンに行ってみる事にした。  
そこで俺が体験したモノは——

「羽目を外して遊ばない？」

彼女——結衣さんは申し出た。可愛い.....こんな子と羽目を外せたら、どれだけ幸せだろう。

「明日は——」

仕事だ。明後日も仕事だ。その翌日も、翌日も。本当に、このままで良いのか？ このまま終わって良いのか？  
答えは出ていた。

「——羽目を外して遊ぼう」

「そうこなくっちゃ！ コンビニへ行くの！」

「.....コンビニ？」

「ここがそこ」

そう言って、結衣さんは俺にキスをした。ペロの先端から電流が伝う。愛、と言う名の強烈電流が。  
電流は中枢神経を巡り、全身を巡る。そして**イナズマ**となる。

その時、大地が揺れた。空間が歪んだと言った方が近いかも知れない。

世界が崩壊を始める。俺のアイデンティティの崩壊に呼応するかのよう。

構うものか。二人で飛び切りロマンチックな夜を過ごす。二人切りで。聖なる夜を祝い、永遠の愛を誓う。

俺たちは向かう。約束の地———ナーダへ。

彼女が.....結衣が消えた。目の前で突然、引力に引っ張られ。結衣さんが.....結衣が悲鳴を上げる。後ろ向きのまま。同時に俺は大地を蹴った。全力で走る。結衣を求め。

衣服は敗れ、濃紺のスーツが深紅のヒーロースーツに変貌を遂げて行く。

走りながら変身する———スーパーヒーローに。走りながら変身する———トゥモロー・ニュースタイルに。

走った。進む稲妻となって。走った。世界に開いた大穴の向こうまで。

穴の向こうには広がっていた。夢の世界.....俺だけの世界が。同時に宇宙が砂煙のように消滅した。目の前で。それでもなお俺は走った。夢に向かって走り続けた。

結衣はフェイドアウトした。しかし後悔はない。未練もない。

走り続けた。力強く、猛スピードで。俺は———

新しい明日に向かって、走り続けた。(了)

キリミハデヤ

hadeyakirimi@gmail.com

81-080-9832-0574

モリカワ ケンタロウ 口座番号

三井住友銀行(店番号232) 普通口座 口座番号:7342872